

(環境基本計画評価検討部会報告)

環境基本計画評価検討部会における審議状況について

令和元年度環境基本計画評価検討部会の審議状況について報告します。

1 第1回環境基本計画評価検討部会

(1) 日時・場所、出席者

日 時	令和元年9月12日(木) 午前10時～12時
場 所	京都市役所分庁舎会議室
委 員	出席：小幡部会長，大島委員，窪田委員，桜井委員，千葉委員， 中野委員 欠席：綾野委員，大久保委員
傍聴者等	1名

(2) 議題

- 京都市環境基本計画 年次報告書 環境レポート(案)2018(平成30)年度事業実績について
- 「京都市環境基本計画(2016～2025)」の中間見直しについて

(3) 主な御意見

ア「京都市環境基本計画 年次報告書 環境レポート(案)～2018(平成30)年度事業実績～」

- 市民アンケート調査はインターネット調査で実施しているが、調査対象者に条件等は付けているのか。そもそも、アンケートに答えてくれる時点で環境に関心の高い人に偏っているようだ。
⇒ 入札のため毎年、受託業者が異なることから、特段の条件付けはしていない。受託業者ごとにモニター会員の構成等は異なると考えている。(事務局)
- 環境レポートの構成について、各施策については、概要版のような市民に分かりやすいタイトルを付けたほうが理解してもらえないのではないか。
- 主観的指標(市民実感度に関する指標)について、京都市の施策との関連性はどうなっているのか。アンケート調査の結果と施策評価のつながりが分かりにくい。
- 最終的に市民・事業者の行動を促す施策を考えていかななくてはならない。そのためには、行動に至っていない原因について、何が影響しているのかを調査しておく必要がある。
⇒ これまでの部会でいただいた意見を、質問項目に追加するなどして関連性等の把握に努めているところである。(小幡部会長)
- 各施策のまとめにおいて、京都市として、どのようなところが課題であると

認識しているのか記載しても良い。

- 温室効果ガスの総排出量を実質ゼロにするための取組として、今までのやり方では達成は難しい。事業者へのアプローチが必要であるが、まとめとしてもう少し踏み込んで記載する方が良い。

⇒ 記載内容について検討する。(事務局)

イ「京都市環境基本計画（2016～2025）」の中間見直し

- 世界的な潮流のある中、SDGsの考え方を計画に入れるのは自然な流れであるが、盛り込む度合いやSDGsの達成に向けての取組を市全体として考え、他局の施策との整合性を図る必要がある。
- SDGs達成のために関連性を考えていく上で、シナジーとトレードオフについて考慮する必要があると世界的に言われている。例えば、冷房の使用は熱中症の死者を減らす一方、エネルギー消費の面で温暖化対策としてはマイナス効果であるといった事例がある。そのため、総合的な視点が必要となる。
- 京都市にとって、SDGsを政策に取り入れることの意義を明確にする必要がある。

2 今後の進め方と検討事項

日程	会議名称	検討事項
令和元年度 1月30日(木)	第2回評価検討部会	○環境基本計画中間見直しについて
3月下旬(予定)	第4回環境審議会	○分野別計画の中間報告